

来月から完全学校週5日制

ゆとりの時間 有効利用を

いよいよ四月から、毎週土曜日に学校園が休みになる「完全学校週5日制」がスタートします。子どものゆとりの時間を増やし、その時間を使って、「自立」を促すのが狙いです。子どもたちは、毎週末の連休をどんなふうに過ごすか、思っているのでしょうか。夙川小学校の三年一組のみなさんに、担任の森本規子先生が聞いてみました。また、子どもたちの声を受けて、高橋忠雄教育長をはじめ三人の方から提案やアドバイスをしてみました。

夙川小児童に聞く

「家族みんなでお出かけを」

と期待します。「週末にお出かけの家に遊びに行く」とうれしそうに話す子どもたち。「いつもお母さんに任せられている犬の散歩をする。広場へ連れて行って一緒に遊びたい」と、家の用事を手伝うという意見もありました。せつかくのお休みですが、勉強に励むという人もいます。「今は不況で、僕たちが大人になるころはもっと大変かもしれない」と心配し「仕事先が見つかるように、ちゃんと勉強して大学までいかな」と、少し不安そうなお母さんでした。一方、ゆとりを満喫しようと考えている「のんびり派」もいます。「日曜日は野球の練習や試合があつて忙しくて疲れる。土曜日は昼寝をしてたっぷり休みたい」という声

「完全学校週5日制」って

今年四月から、全国の幼稚園、小、中学校、高校、養護学校で毎週土曜日が休みになります。これまで、月二回の土曜日だけが休みでしたが、これからは毎週、土曜日、日曜日が完全に連休になるのです。このことを「完全学校週5日制」と言います。平成10年に文部科学省(当時は文部省)が、取り入れることを決めました。毎週土、日曜が連休になると、児童生徒のみなさんには「ゆとり」の時間が生まれます。家で自分の趣味に打ち込んだり、外で野球やサッカーなどスポーツに励む

これから毎週末が連休に

ことができます。たまには、ボーイと過ごすのもいいかも知れません。大切なことは、みなさんが、ゆとりの時間を「どう過ごすのか」「どう利用するのか」を、自分で考えて計画し、実行することです。そうすれば、大人や先生の助けを受けずにひとりだちしてゆく「自立心」が、みなさんに芽生えることでしょう。保護者や地域の方々もこの際、「ああしない」「こうしない」と指図するのではなく、見守ってやってはどうでしょうか。

先生らからのアドバイス

お父さんと会えるのは週末だけ。だから、一緒に過ごせる時間が増えてうれし「と笑顔のぞかせた男の子もいました。家族とのふれあいを楽しみにする声もありました。「みんなで買い物や、お食事をしに出かけたいな」

や、「お母さんに早く起きなさい」としかられないのがうれしい。思いっきり寝坊するぞ」との声も飛び出しました。中には、こんな意見もありました。「僕のお父さんは土曜日は休み。家でゆっくりしてもらいたいから、僕は学校に行きたいな」

あれもしたい。これもしたい。子どもたちの「したい」には終わりはないようです。最後に、森本先生が「どんなふうに通うか、おうちでも話し合ってみて」と締めくくりました。

「お父さんとキャッチボール」



4月から毎週末が連休に。その過ごし方について思いを語る子どもたち。夙川小学校

高橋教育長 活動の機会と場所必要



子どもたちの声を聞いて、率直な気持ちで表れているな、と感じました。親と一緒に過ごす時間が少なかったり、子ども自身が忙しくて疲れていたりと、それぞれの置かれている状況が反映されていると思います。子どもたちには、いろいろな人間関係の中で集い、ふれあう機会、学校ではできない社会体験にも参加してもらいたいですね。そのための行政の役割は、子どもたちの「やりたい」という気持ちに幅広くこたえられるよう機会と場所を用意することです。土曜日に体育館を利用したスポーツ、レクリエーションの事業を開くなど、市の施設の有効活用を考えています。

竹村・鳴尾東小校長 家族の絆再生の好機



休日増は、家族のきずなを結び直す絶好のチャンスです。親子の思い出が子どもの生き方の原点になると思われ、家族でじっくりと休日の過ごし方を考えてもらえたらうれしいです。地域が先に「理想の受け皿」をつくるのではなく、例えば公民館なら、その施設に子どもが集まることから、ニーズを探っていくのはどうでしょうか。子どもは社会の宝。地域に期待することとは大人の人たちが、子どもの成長に感化するような出会いができれば素晴らしいです。

黒木・PTA協議会会長 親子で共通体験を



子どもたちが、こんなことを考えているのだと感心させられました。普段忙しく、子どもたちと接する時間の少ないお父さんへの期待も大きいようです。この機会をきっかけに、いろいろな活動を通じて、各家庭のライフスタイルに合わせて自由に過ごすことが基本です。しかし、せつかく増えた休日、家庭でしっかり子どもを受け止め、親子で共有する時間や体験をたくさん持つてほしいですね。「子どもが家にいて大変」と考えずに、一緒に料理、散歩、スポーツ観戦など共通の話題づくりをしてみたいかがでしょうか。また、地域活動にも親子で参加し、地域での大人の役割を子どもに見せてほしいと思います。

ご家族でお読みください